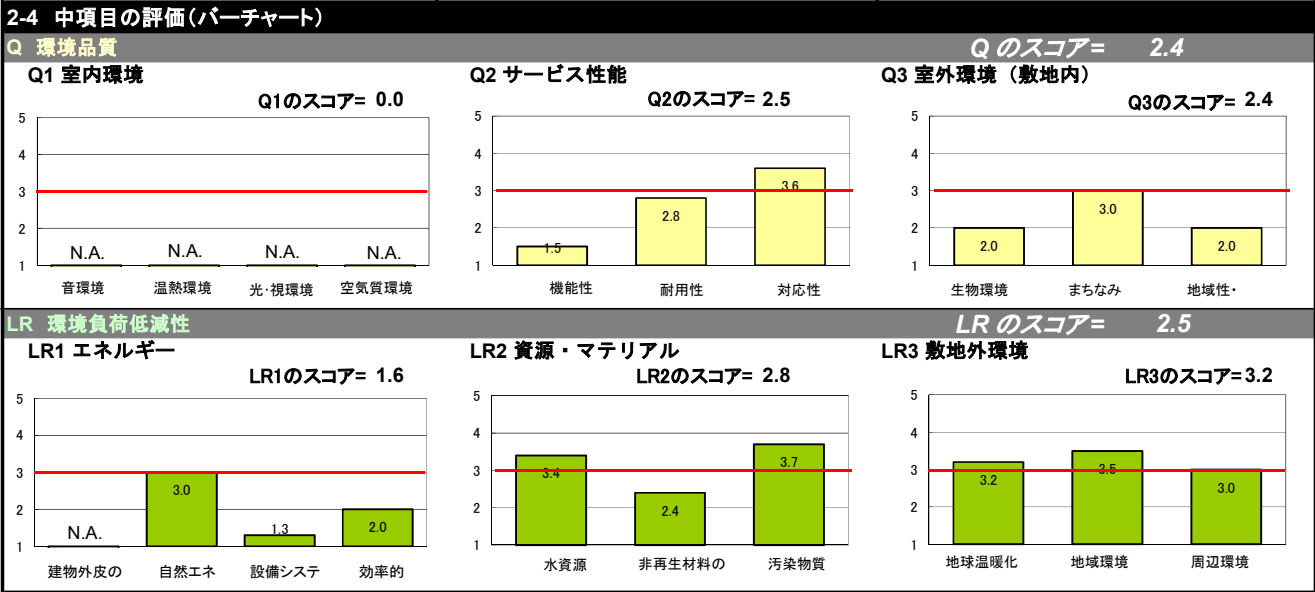
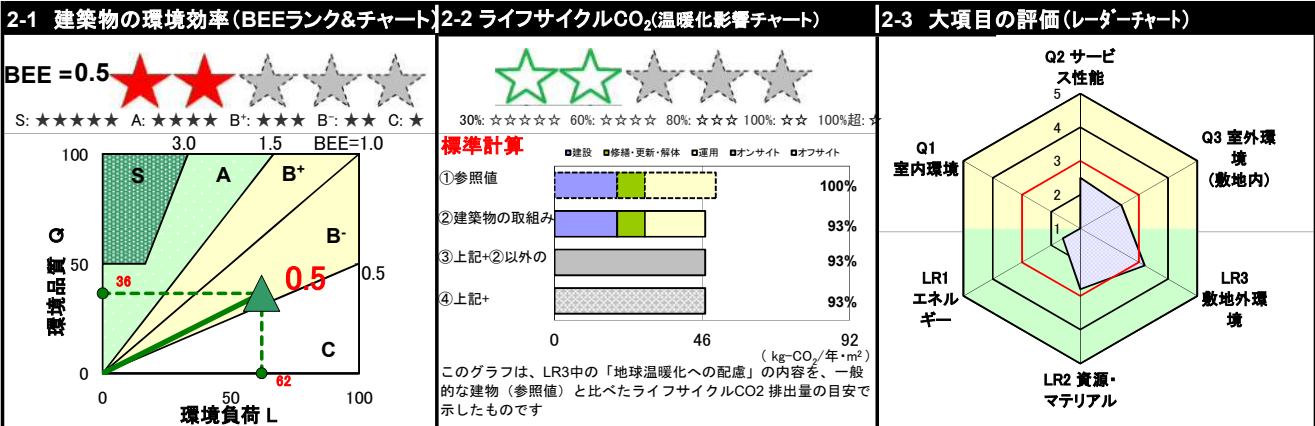


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社 三幸製作所 第5期 増築工事	階数	地上1F
建設地	静岡県浜松市中央区西丘町 681-1	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	10 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2024年4月16日
敷地面積	17,804 m ²	作成者	株式会社 飯田組一級建築士事務所
建築面積	6,906 m ²	確認日	2024年4月23日
延床面積	7,100 m ²	確認者	株式会社 飯田組一級建築士事務所



3 設計上の配慮事項		
総合		
・これはCASBEE(2021年版)による評価結果です。		
その他		
特になし		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・増築部分は生産エリアのため評価対象外である。	・階高は5.92mである。	・景観条例に準じている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・既存部分をBEI=1.2とみなす。	・省水型便器を採用している。 ・発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	・駐輪場・駐車場の数・導入路・配置等、配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要																	
建物名称	株式会社 三幸製作所 第5期 増築工事					BEE	0.5	BEEランク	B-	★★							
2. 重点項目への取組み度																	
重点項目	得点**/満点		取組み度				評価										
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	2.9	/5	    				がんばろう 										
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.6	/5	    				がんばろう 										
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.5	/5	    				ふつう 										
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.7	/5	    				がんばろう 										
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)					評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上		がんばろう 3 点未満							
3. 重点項目についての環境配慮概要																	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。						内訳対応項目											
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)						得点		2.9									
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①②③生産エリアのため評価対象外					Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能						
						Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備						
								3.2	3.2.1	③	昼光制御						
						Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数						
								2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔							
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑地指数35%である。							2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔							
								2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔							
								2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔							
								2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔							
						Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出						
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑨LED照明を採用している。						3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上							
					LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制							
						2			⑧	自然エネルギー利用							
						3			⑨	設備システムの高効率化							
						4	4.1		⑩	モニタリング							
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪省水型便器を採用している。 ⑬発泡剤を用いた断熱材を使用していない。						4.2			⑩	運用管理体制							
					LR-2	1	1.1		⑪	節水							
							1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無							
								1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無							
						2	2.1		⑫	材料使用量の削減							
							2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用							
							2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用							
							2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用							
							2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材							
							2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み							
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮卓越風向に対する建築物の見付面積比は25%である。						3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用							
							3.2	3.2.1	⑬	消火剤							
								3.2.2	⑬	断熱材							
								3.2.3	⑬	冷媒							
					LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮							
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)						得点		2.6									
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし					Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性						
									2.1.2	⑯	免震・制振性能						
								2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備						
								2.4.2	⑰	給排水・衛生設備							
								2.4.3	⑰	電気設備							
	■しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)							2.4.4	⑰	機械・配管支持方法							
								2.4.5	⑰	通信・情報設備							
						“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)						得点		3.5			
							■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑ラメン構造を採用し、壁長さ比率は0.095、階高は5.920mである。					Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
													3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
			3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ												
Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上												
■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 特になし					“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)							得点		2.7			
						■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑地指数35%である。 ㉒景観条例に準じている。					Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
												2			㉒	まちなみ景観への配慮	
												3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
											LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材	
LR-3	2	2.2		⑮							温熱環境悪化の改善						